



新板
 後心
 為
 上

76
 5460
 1



白雲閣
堂藏
公印

世禱同答書

霞亭文庫

馬語文庫

花のやこれいさよまきり門のらよ
世よりいよまきりぬいらのかしらるけり
福と色ひるも友やせむもくも色あり
けいふれ白りはきくかへし
山のこころさうらゆめはひるふよはくも
世のこころやしてさうらふはまきり
りのこころはひるふよはきく
ひるふよはひるふよはきく

アウキ
ムニ山

世統同善同録と巻

一 正月とひ月とらふ事

一 門表乃事

一 しとりの事

一 本下乃玉乃事

一 屠蘇とそ白ひやくぬぬ乃事

一 餅もちの美みじらら乃事

一 ちりよあしひの事

一 ちりよの事

- 一 七のりむのり
- 一 七のりむのり
- 一 十五のりむのり
- 一 百歳のりむのり
- 一 七のりむのり
- 一 七のりむのり
- 一 七のりむのり
- 一 七のりむのり

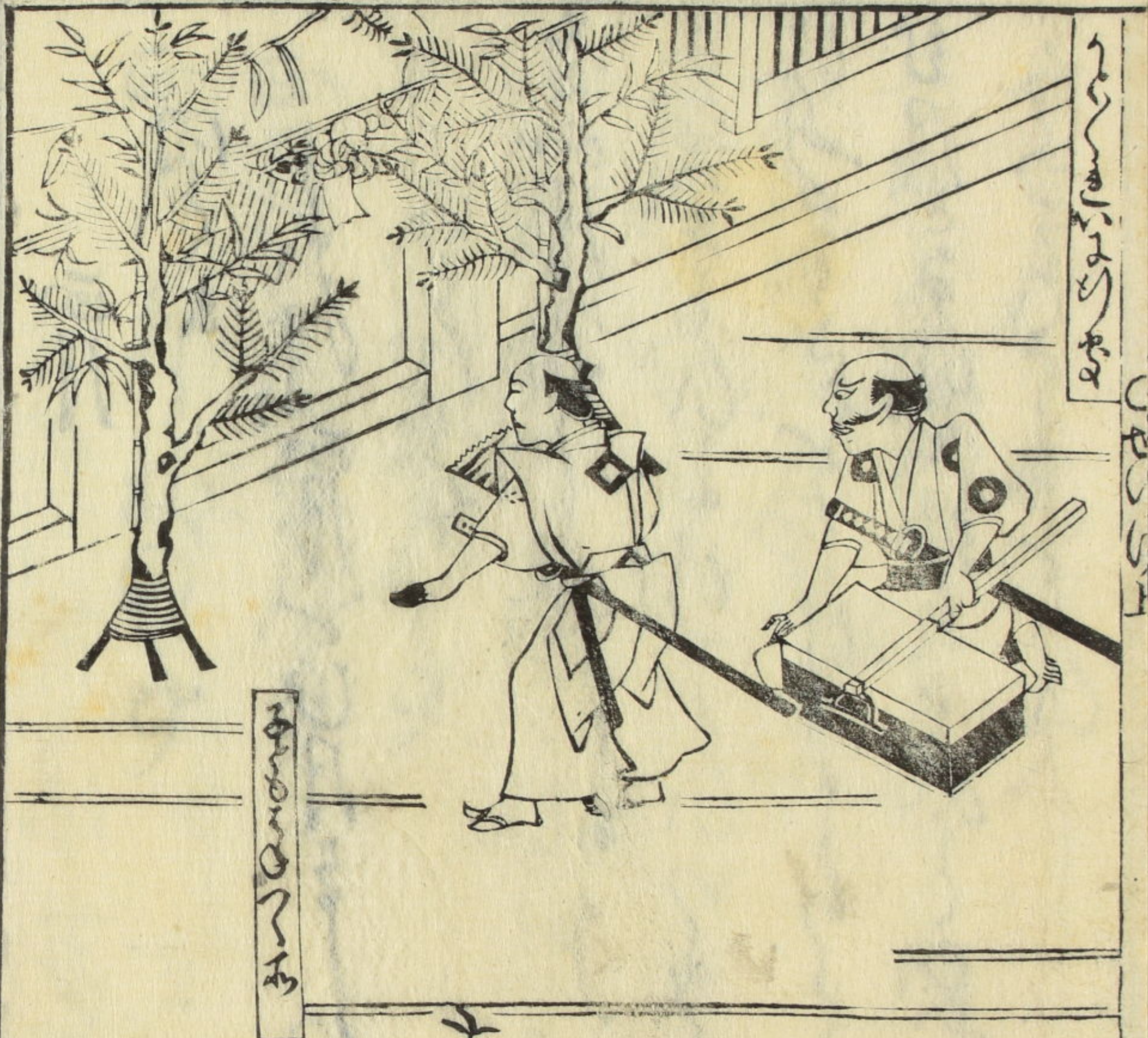
正月

同く

正月のりむのり

正月のりむのり
正月のりむのり
正月のりむのり
正月のりむのり
正月のりむのり
正月のりむのり





同くとも

羽目ちちとちの家の門乃松さくぬ
 てゆらひあたるうらもしぬるのそや
 登り下りともあーのいんごう門乃松をい
 ゆるはし—らあらあつていもふらるるか
 ちの家のあへたさ—ぬ戸るむよ—く民戸
 とすゆもせし—か一町乃らとよ夫しよ
 もらく門とそき—くべの門あり—きり
 それゆへは家のあるとはらりゆへ門は入

さめくひぞれ口くちの船ふねは松竹まつたけとえゆりあや
 かつらとらむらひの代しろどうもま
 来きたれなやしらむれいい并ならずはそ
 ゆるへいまいまいはゆりの葉はの深ふかくはありそ
 名なる霜しもよもぎのまぬ物ものなればらぬ物もの
 つらして同おなくひひゆるらやらぬ物もの
 物もののたたじじ物もののくとそららぬ物もの
 むらむらたのた津つ津つををぬぬららるるととそそらら
 ぬぬららるるおおららららるるたたががああららるるおお

あらいひ

八人やくにん神かみののたたりりのの志こころととああひひ
 くりくり縄なはととひひれれももおおのの今いまももああららぬぬ津つ
 志こころととひひれれももおおのの今いまももああららぬぬ
 ととひひれれももおおのの今いまももああららぬぬ
 今いまももああららぬぬ
 今いまももああららぬぬ
 今いまももああららぬぬ

さゆりあやののたたりりのの志こころととああひひ
 さゆりあやののたたりりのの志こころととああひひ
 さゆりあやののたたりりのの志こころととああひひ



ひろのり。林あいつは〜は結よ解きとらふ虫あか〜
 へぬとらふ物あまのたのしむ。木く連れんひる
 ぎとん〜のりあ〜〜とほけあ
 うらら〜は〜は〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 うらら〜は〜は〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ
 小このりの〜〜は〜は〜あ〜あ
 同どう〜
 木き下か〜玉たま〜のり〜
 黄わう帝てい〜のり〜
 六

くさ。炎帝といふ子孫とゆわがして位は
 子孫へつと。その炎帝の位は。雲むやひく
 悪人。湯磨といふ。而して。炎帝のあま。うさ
 も。つ。移入よ。その悪者。夜病といふ。神より
 て。國に。人。氏と。ゆわが。せら。ら。ま。ら。く
 末の代よ。夜病といふ。れ。い。ん。あ。ち。ま。む
 の。船。か。と。け。こ。く。ま。ら。て。む。の。色。の。と
 け。ひ。ら。ひ。の。月。は。は。れ。ま。ね。し。け。し。け
 人。見。と。わ。こ。く。ま。丁。し。む。あ。て。あ。い。く。よ

せら。の。れ。ま。ね。の。あ。く。ま。ん。の。重。ま。あ。り
 移入よ。ら。ら。の。時。つ。ま。し。ん。之。重。ま。ゆ。と。つ。そ
 中。の。人。見。と。わ。の。ま。こ。ら。ら。ら。ま。ら。ま。ら。月
 乃。ま。ら。あ。し。の。肉。の。り。馬。頭。藤。し。ひ。が。大。根
 かし。せ。る。夜。ま。て。く。ま。し。よ。せ。ら。ひ。外。五。節
 法。の。あ。ま。し。も。の。く。の。く。の。ま。あ。の。く。く。ら
 少。も。夜。病。の。神。と。い。ふ。あ。ま。し。人。も。ま。ら
 ぬ。ま。ら。の。の。ま。ゆ。ら。ま。あ。及。ゆ。り
 同。く。な

えんしんいのし屠蘇白飯乃酒と替らひ
中ありや屠蘇とてつたひいんよ蘇
けゆるそ木

けしんの醫四方全名園純まひり利也
ぢの屠蘇し卑智の病ゆるじりまはひ
けりよよみけり人のひ業とそん聖乃人の
えんごりて大晦日よ針の仲よひりて
えんごりて酒橋よむりてそ
よのまじり年夜氣よめりてそ

利華女をきりて
茶子とてなす

そり一人の道とゆめし一家よ病りて
ゆめゆりまきし屠蘇とてそん小唄り
のまじりてそり小唄りせりてそり
まの先者八年とてそりてそりてそり
まの東坡のゆめとそりてそりてそり
ゆめまじりてそりてそりてそり
つて禁中しそりてそりてそりてそり
童女よゆめとそりてそりてそりてそり
前へめられてとそりてそりてそりてそり

依御くよりくさるる。白散いびくせんの又また色いろ茶ちやと
 けいゆけいゆのてい二らんにらんの道みちと依よと地ち結むすした
 器き也なりをいひて一ひと道みちと方かた寸すんのゆぐをいひ
 て酒さけよりゆぐすゝ居い際さいあとの六む九く種しゆの茶ちや
 とけいゆけいゆのてい二に飲いんの道みちと依よと山さん嵐らん瘴じやう
 氣きとていぐ茶ちやの述ゆつ也なり風かぜとてい九く物ぶつとて
 ぐ茶ちやののてい一ひと種しゆの茶ちや紀きあぐとて
 ひく酒さけよりゆぐすゝ居い者しやより一ひとかきをいひ
 同どうく云いふ

同日どうじつ高たか岡おかとていひくともらるるにみよひ

いふはゆぐのてい

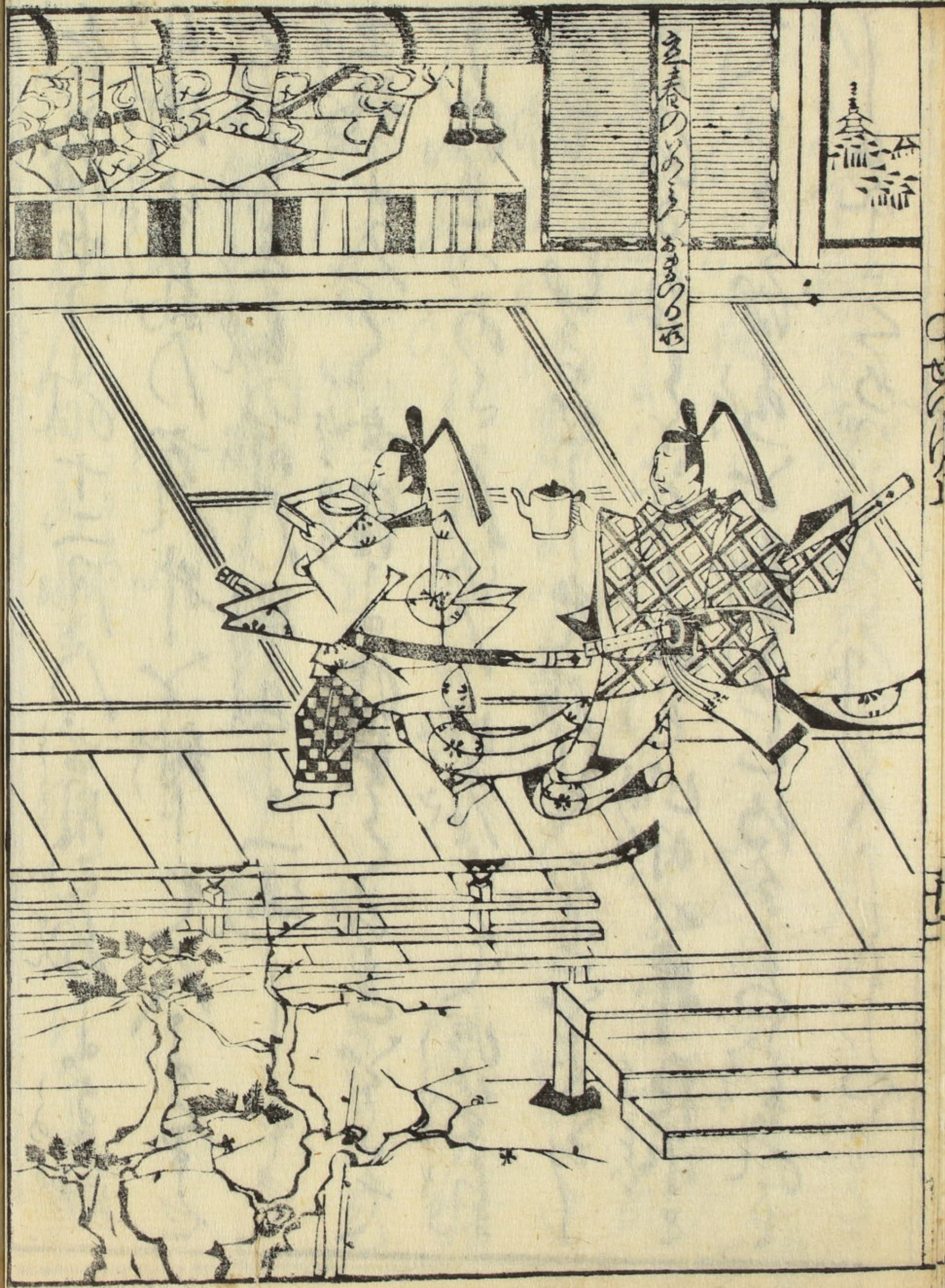
昔むかしの衝つともいひて命いのちとてい居いる居いる
 みよひとていゆぐのてい一ひと種しゆの茶ちやとてい
 といひていゆぐのてい一ひと種しゆの茶ちやとてい
 大おほいしゆとていゆぐのてい一ひと種しゆの茶ちやとてい
 月つきのていゆぐのてい一ひと種しゆの茶ちやとてい
 ぬきとていゆぐのてい一ひと種しゆの茶ちやとてい
 ぬきとていゆぐのてい一ひと種しゆの茶ちやとてい
 ぬきとていゆぐのてい一ひと種しゆの茶ちやとてい



舞と酒とをのりたれあし 延嘉の江戸の江戸
 近頃の國より大嘗會の江戸をまわす
 一時代大傳の星まじりあふ新の江戸物
 巻あはしけりし詞といふさくらけりあは
 ころの餅の葉むの國とるけりけりけり
 同
 ころの餅の葉むの國とるけりけりけり
 ころの餅の葉むの國とるけりけりけり
 ころの餅の葉むの國とるけりけりけり

或よ六千瘡方病膏とありとありくはつこ
る外に病とるごとくありあはるはく
此葉乃之因よいことしけけ給ふる。後醜
醜醜の此次才よいあやくとがはむこ
りて身れうあけ給ふ。のせう給
る。衣乃束口乃指とくありてけくあうら。毛
の葉即し中相とゆるあやわ
同く云
豆ま乃日あはら 一ひじのゆるーわ

吾乃中やれ十二月の古用らあよ。まは
司所生氣の京井と封し人よまを
どしてままの月乃早也。一運ーゆて
主親よ入く。如宿よけまくらあよとて
まはまあ。あさくれあはる。此生
乃かへしらせー先給くらとよとら
まはまのあまこくあまはひ日。井た水と
てままあまよ香のよゆるーわ。まは
一先よくあまららまらーわ



同く云

七日よあけ物とくく付の役もゆるわ
 吾正月わがただしづきの湯ゆの月つきのりりとくく七日ななひの湯ゆの教しやう
 ろのりりとくく胡ことくく先まへとくくさくく
 家いへのりりとくく集あひまひ會あひまひとくくおのりりとくく
 せよあけ物あけものと食たべとれれハ百ひゃく病びやうとくく邪よこしま氣き
 とくく粥かゆのりりとくく女によ文ぶんのりり判はん禁きん之し統とう也なり
 りりとくく色いろ妻つまと食たべして人ひと俗しやく病びやうのりり也なり
 びびと人ひと日ひのりりとくくをりをり運うん磨ま十一年じゅういちねん正ただし

月七日は後院より七種ありしれと伝はれ
 そりそ七種ありしれと伝はれ
 昔も飛とて一乃佛乃存すくあり。水野
 天神と和業美器に也物給ひとれ
 ひくありゆり一申すとや

同く云

久大御代とて白馬とて給じり
 乃いれそや

善十節純よ白るとるは姓乃なと云

よ白給あり地よ白馬ありのぼく夫れ國
 給あり地乃用はるるのそりなみの
 礼純といふまよまよと東部よしんて音
 る七之とそらぬるとみゆり一。まよと白
 るとまよとそりゆりし湯の給あり音
 ま乃又とそりまよと物ハまよと
 持らとありのゆりまよとまよとひて
 一や正月七日よまよとまよと八年中乃
 神氣とそりまよとまよとゆりありのまよと

らんていしつ物とらふに...
しんあーや

同くま

十五日よのひとと食と...
のんあーの

管人の國のじ... 黄帝... 魂... 天...
み日よ。あつ...
あかへ地... 人...
時よ。天...
天よ。い...
天はけく

の... 魂... 崇... 月... 魂... 天...
て... 代...
魂... 天...
... 東... 月...
... 食... 年...
... け...
... 天...
... 天...
... 天...

とまじゆりゆり

同く云

爆竹しるるの存介りてゆるぎや

春神畏経云ある方の山中よもひ一尺作れ

人ののらまよふ者則寒熱乃病とふと

あつと竹火とそそく爆炸のしるるのまじり

勢のまよふと又書文類家とみよ

爆竹聲中一歳除春風送暖入屠蘇千門万户

瞳々日總把新桃換舊符



kadomatsu

屠蘇ハ孫思邈そんしやうの唐たうの色いろなり。屠ハ割わ
 也蘇そ瘡あざ也なり也なりみくもり。寒さむ熱あつ和あ合あ之の
 氣きとそりふふふいいるるへへ爆はくの
 字ハ廣韻くわんハハ火烈さつと注しゆせりしてし
 ぬくことなり

同く云

さんとまんごうの付りやしてひくの
 入るん

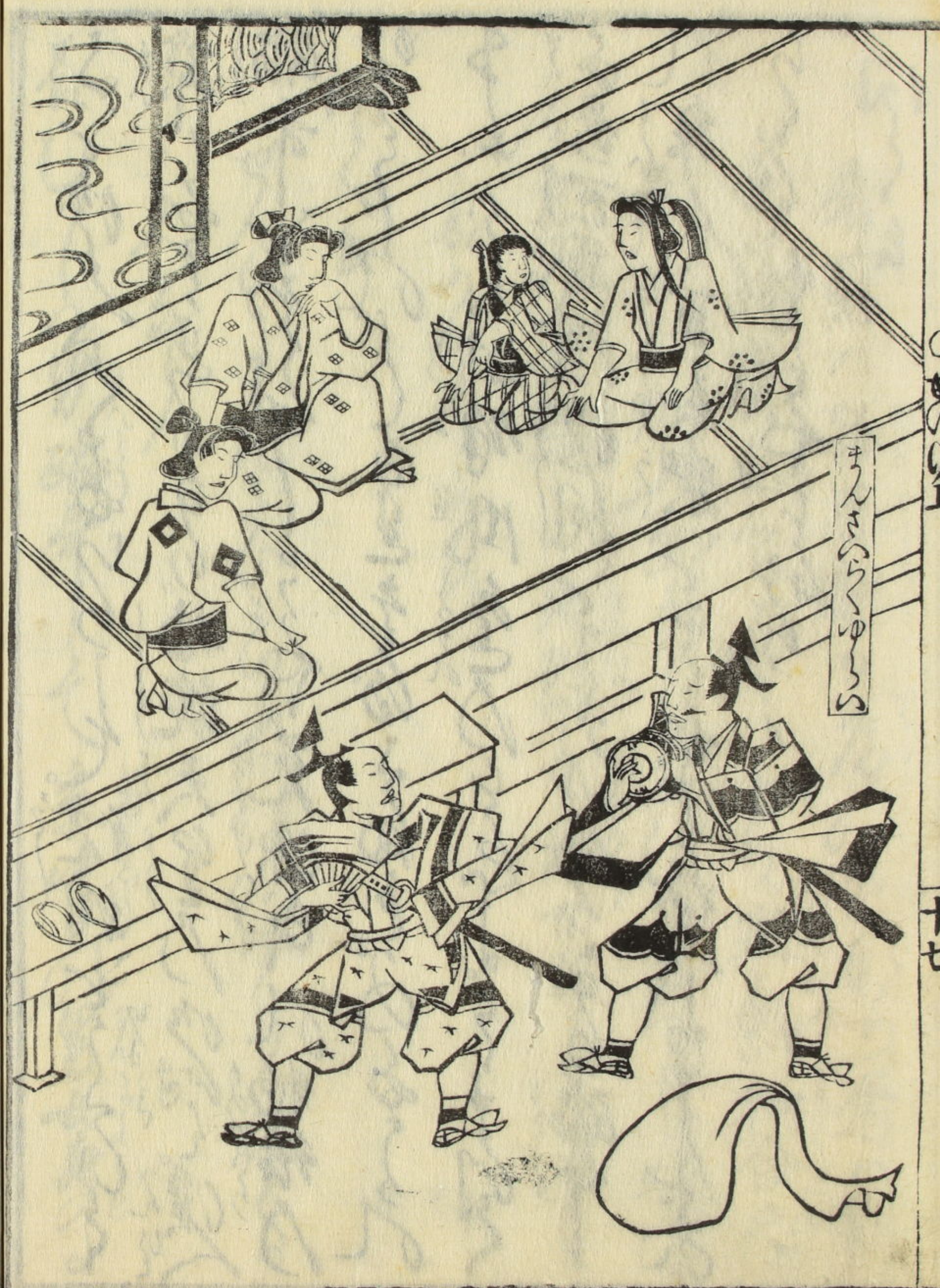
谷やししハ男おん踏ふみ音おんとそと系き冲うちハ男おん女にょ音おん

ことほくへくもりして後網ごうとくひく
 舞まとてつうの持統ぢゆう天皇てんかう乃なり以も付つしし塵ちん人じん
 踏ふ音おんとそとそそやや光ひかり依よ氏しハ物もの徳とく乃なり
 ぬくことなり。昔むかし解と風かぜ色いろ乃なりとそといいゆるるの踏ふ音おん
 乃なり舞ま人じん乃なり去さ樂がくとそとそそ接つ入い乃なりいい
 ぬくことなり

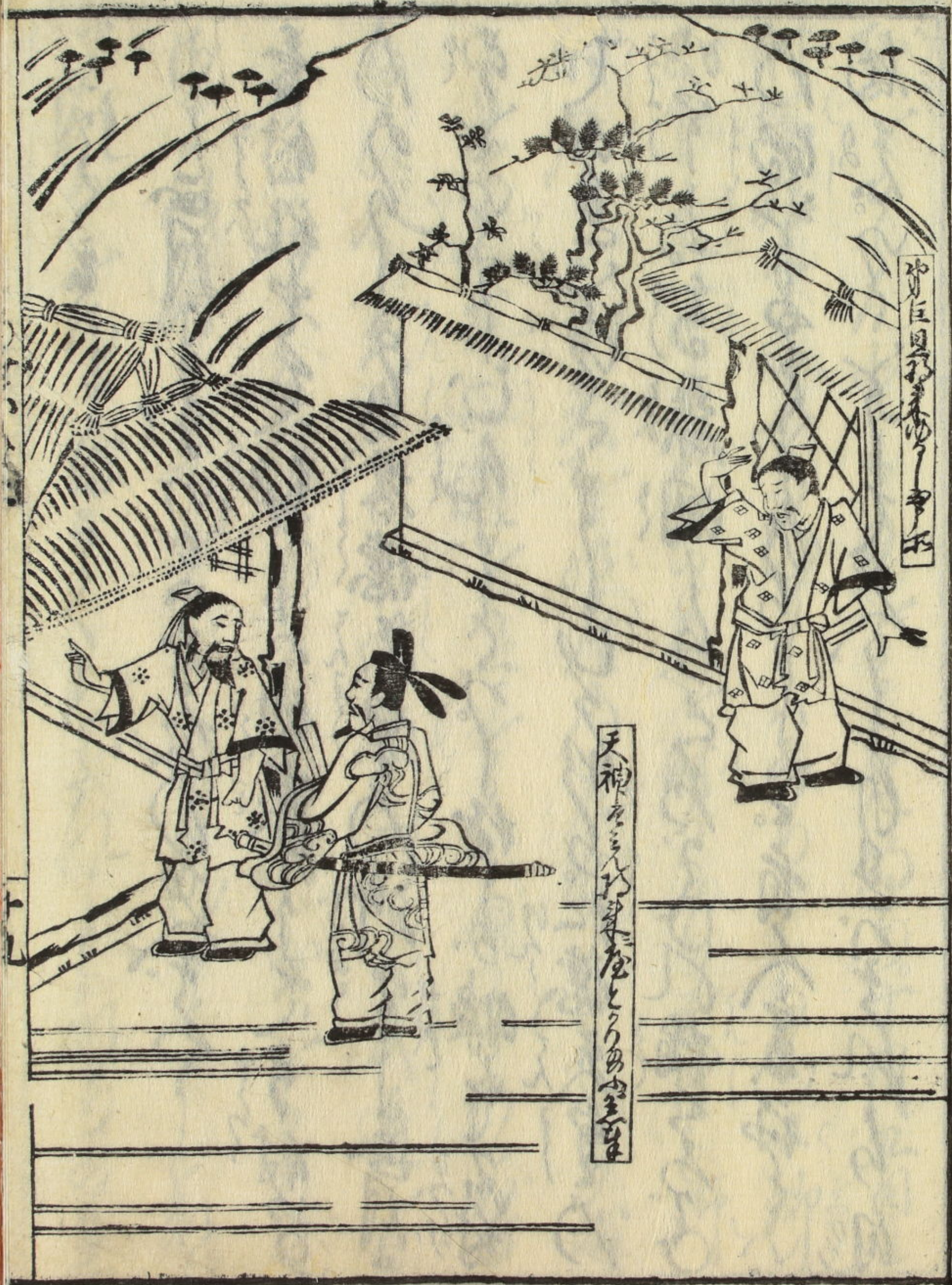
同く云

下三民塔と云
 この三民塔と云
 才竹せむ光か
 うとて
 中巻三民塔天神
 素書道自余の童
 の世を重くとん

そめんをきらひて
 ぶし何乃いれぞや
 昔有武塔天神南海の女子と
 時日暮るるけむと
 某臣且将某中らふ二人乃者あり
 てありらる天神才也巨且将某
 ら終よを身と共り
 まはらんとそめん将某
 人ぞも翁



まんきらくゆう



けして果の版とてそ中けりけり。そ乃
 後八年とて民各天神ハくくは神
 子とひさぐての蘇氏の家よつら給
 ひくつてたなりとくしけり恩と報せん
 中々。蘇民よ茅場とけり命とて給ふ
 多夜ら。夜毎百民よいそくそ蘇
 氏にらひけり。らら。今乃世よ
 ぶ。そく。けり。名と書く。く。ば。そ。く。ま
 も。ら。ゆ。ら。

因くも

正月よりつらつたるなりあへてや

昔村礼やしてしへの内裏してつらつた

りのりゝのり。孝徳天皇の御宇に正月

らとつてしへんてつらつた。眼やみ付

てつらつた。仁徳天皇の

御宇に。藤原のりつらつた。この指さるる

りのりつらつた。有人多神とい

ぬむつとつてつらつた。つらつた。目

夏越の節

かといふんやつらつた。十月五日

村場娘やつらつた。つらつた。御

らつた。つらつた。つらつた。つらつた

村席よりつらつた。つらつた。つらつた

らつた。つらつた。つらつた。つらつた

ゆひ。つらつた。つらつた。つらつた

らつた。つらつた。つらつた。つらつた

つらつた。つらつた。つらつた。つらつた

つらつた。つらつた。つらつた。つらつた

よらしてえ年^{せんねん}はく^く先^{さき}。射^うの^の
つ^つら^らり^りせ^せら^らあ^あま^まら^らい^いく^くに^にた^た
界^{かい}し^しる^るあ^あの^の

因^{いん}く^くま

正^{せい}月^{げつ}の^の卯^う杖^{じょう}も^もし^しり^りゆ^ゆら^らわ^わ
昔^{むかし}より^{より}の^のし^しも^もり^りの^のし^しも^もり^りの^のし^しも^もり^り
と^とし^しも^もり^りの^のし^しも^もり^りの^のし^しも^もり^り
川^{かわ}の^のお^おい^いが^が持^{もち}統^{とう}天^{てん}皇^{こう}三^{さん}年^{ねん}正^{せい}月^{げつ}に^に卯^う杖^{じょう}の^の白^{しろ}
大^{だい}字^じ系^{けい}ら^らの^のそ^そう^うく^くま^まら^らい^いの^のし^しも^もり^り
因^{いん}く^くま

内^{うち}作^{さく}物^{ぶつ}所^{しょ}
拾^{しゅう}芥^{がい}

え^えら^らの^のそ^そう^うく^くま^まら^らい^いの^のし^しも^もり^り
杖^{じょう}斲^{たく}して^{して}精^{せい}魅^みと^と地^ちの^のし^しも^もり^り
是^{こゝ}の^のし^しも^もり^りの^のし^しも^もり^りの^のし^しも^もり^り
の^のし^しも^もり^りの^のし^しも^もり^りの^のし^しも^もり^り
知^ちと^と作^{さく}く^くあ^あて^てま^まは^はり^りて^て卯^う杖^{じょう}の^のし^しも^もり^り
あ^あら^らあ^あく^くい^いは^は生^{せい}氣^き東^{とう}の^のし^しも^もり^り
こ^この^のし^しも^もり^りの^のし^しも^もり^りの^のし^しも^もり^り
こ^この^のし^しも^もり^りの^のし^しも^もり^りの^のし^しも^もり^り
こ^この^のし^しも^もり^りの^のし^しも^もり^りの^のし^しも^もり^り

